

## 編集後記

歯科疾患実態調査によるう歯（永久歯）を持つ者の割合において、19歳までは激減している。ところが、20～65歳はほとんど変化なくう歯の減少は認められない。一方、65歳以上の高齢者では逆に激増している。初期エナメル質う蝕（CE）と初期根面う蝕（根C）の制御が保険取裁され、8020のさらなる展開が期待される。したがって、主たる生産年齢の国民のう歯の減少が喫緊の課題であろう。このような状況下、令和4年6月7日にいわゆる骨太の方針2022が内閣府より発出された。歯科口腔保健分野の充実が2017年より図られ、今般「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討」がやっと盛り込まれた。本制度が一日も早く整備・推進されることを願って止まない。そして、20～65歳のう歯の減少に貢献し、8020運動がさらに充実することを期待している。広報・編集委員会は、鏡会長のもと益々の充実を図ってゆく所存です。フェローの皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。（富士谷盛興）

3年に渡るコロナ禍により、今期は外出・移動自粛の要請は無かったものの、従来通りの集合型の広報・編集委員会を開催できず、そのほとんどをZoomでのオンライン会議開催を余儀なくされ、各委員にはご不自由をおかけしましたが、何とか発刊に漕ぎ着けました。また今期はICD日本部会の紹介のしおりをほぼ10年ぶりに改編改訂することができ、さらに本部からICDオリエンテーション・リーダーシップマニュアル【日本語抜粋版】を抱き合わせで発刊との運びとなり、国際交流委員会のご協力も得て、雑誌ならびにしおりとも整合性のあるように修正することができました。ボリュームのあるものとなっています。フェローの皆様にはじっくりのお目を通して戴きたく存じます。執筆ならびに編集にご協力頂いた各位に感謝いたします。（今村嘉宣）

本会の「紹介しおり」も見やすく整理され、わかりやすくこれまでのICDの活動を顧みることができました。国際的に歯科医療に従事した先人達の業績と努力に改めて敬意を表したいと思います。さて本邦における歯科医療に関連した学術活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で約3年間制限された状況であったと言えます。これまでの継続したICDの歴史を絶やさぬよう、会員の一人一人の活動が必要と思われまふ。（佐藤 聡）

委員会に入れていただき、丸5年です。副委員長を2年、委員長を2年させていただきました。厳しい査読も行いましたが、皆様のご理解により、雑誌は少しずつですが、さらに良くなってきたと思います。ありがとうございます。今期からは、一委員として、雑誌に貢献するとともに、フェイスブックと学会WEBページの管理を引き続き担当させていただきます。どうかよろしく願いいたします。（佐藤裕二）

パンデミックの歴史からみて、約3年が目安となっていたので、今年の夏には、新型コロナウイルスが治まり、生活もコロナ以前に近いほど戻ると信じていましたが、ここに来て第7波が日本に来るとは思いもしなかったです。ただ、皆さんもそうだと思います。

ですが、お医者さんから「どうして、歯医者さんではクラスターが出ないんですか?」とよく質問されます。私は、「各歯科医院で滅菌・感染対策の違いはあると思いますが、しっかりとされているからなのではないか」と答えています。一時は、「歯医者さんへ行くとコロナにかかるから危ない!」と言われていましたが、そんな心配はなく、逆に口腔ケアをしっかりとやることによって免疫力が上がり、感染率が下がるとも言われるようになって来ました。更に、国民皆歯科検診が話題になっていますが、私たち歯科に対する評価が少しずつ上がってきていると考えます。今後とも驕ることなく感謝の気持ち忘れず、今できることを無理なく愉しんで進むことがより大事になっていると考えますが、皆さんはどう思われますか?最後に一刻も早くコロナが、そして、『戦争』が終息することを心から祈っています。感謝を込めて……。（白壁浩之）

2020年に新フェローになり広報編集委員を拝命致しました。2年間の間に何編かの原稿を査読させて頂きましたが、選ばれし新入会員の先生方の原稿はほとんど修正の必要がありませんでした。より良い会誌になりますよう微力ながら貢献できたら幸いです。2022年以降、いろいろな学会がハイブリッドで行われていますが、早く平常に戻ることを願っております。（坂本輝雄）

2020年度から、隅田会長・今村常任理事・佐藤委員長のご指導の下、広報編集に携わらせていただきました。この2年間はwith coronaでした。without coronaになる日が来ることを期しながら、2022年度も引き続き担当させていただきます。本号発行にあたり、ご寄稿下さった先生方・ご協力いただきました皆様、厚く御礼申し上げます。今後とも、どうぞよろしく願い致します。（下村直史）

今号では少し編集委員らしい仕事をさせていただきました。得意な分野ではないのですが、お役に立てたなら幸いです。今後もコロナで微妙な世情ですが足元を見つめて生きたいと思えます。（武内久幸）

コロナ禍の中、広報編集委員はWEB会議で意見交換を行ってきました。今年6月になりやや感染も収束し始め、久しぶりの対面会議を行った矢先に、第七波が到来しました。やはり対面会議は意見交換が密にできることを実感いたしました。今後、さらに本学会誌が国内外の会員にとって有意義な学術誌になることを願っています。本学会誌の発行にあたり、ご寄稿下さった先生方、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。（林 昌二）

広報・編集委員になり2年となります。この6月に、本委員会に初めて"対面"で出席し、ようやく他の委員のメンバーと直接顔を合わせるようになりました。本号発行に向けての作業の後には、ベルギービールで委員の方々と楽しい時間を過ごすこともできました。オンラインにも良さはありますが、対面での交流の大切さを改めて感じました。（堀江 卓）